

- 02 インタビュー
- 06 教えて！知るぼると
贈与を身近に
—世代を超えて財産を有効活用する—
- 10 マンガ「わたしはダメサレナイ!!」
管理会社からの紹介を装ったり、
点検を口実に売り込む！
新生活を狙った悪質な訪問販売に注意
- 13 連載「脳貯金で100歳までイキイキ」
第4回 もっと脳を鍛えよう！
脳番地トレーニング
- 16 そこが知りたいくらしの金融知識
初めての一人暮らし
賢いお金の管理術
- 20 誌上セミナー
介護離職をしないために
仕事と介護を両立させる
四つのポイント
- 23 特別レポート
第19回 金融教育に関する
実践報告コンクール表彰式
- 26 知るぼるとNEWS1
中学生・高校生を対象とする
作文・小論文コンクール
入賞作品のご紹介
- 28 知るぼるとNEWS2
「家計の金融行動に関する世論調査
(2022)」の結果を公表しました！
- 30 おたよりコーナー
漢字矢印パズル
- 31 都道府県金融広報委員会一覧
編集後記

※取材は感染対策を徹底して実施しています

家事・育児の大変さは やってみて初めて実感できる

マルチなタレント活動で知られる、つるの剛士さんは、『イクメン』という言葉が市民権を得る前から、育児に積極的に取り組んできました。なかでも有名なのが2010年の「育休宣言」。育休を取得する男性はまだ少数派だったこともあり、大きな話題となりました。

「ちょうど妻が4人目を授かったときでした。僕、それまでは全然家事・育児をしていなくて、『ヘキサゴン』や『羞恥心』の活動もあって忙しくて、家には寝に帰るだけ。藤沢に引越したタイミングだったんですが、地域とのつながりも全然つくれないし、妻とのいざこざは絶えないしと、家庭不和状態。『このままじゃ本当にやばいな』と思っていたので、一念発起、休むことを決断

したんです。

事務所に話しても当然反対されるだろうと思つたつるのさんは、「ベスト・ファーザー賞」の受賞式会場でいきなり育休を宣言。関係者を慌てさせた。2カ月の育休を取ることができました。「最初のうちは、お弁当を作ったり、ゴミ出ししたり、正直、『なんだ、楽しんでるじゃん』って思っていました。でも2週間ぐらいたつたら、『やばい、もう仕事に戻りたい』と思うようになって。家事

って同じことの繰り返しで、やって当たり前だから誰からも評価されないし感謝もされないんです。息抜きの外食だって簡単には行けないし、黙々とこなすしかない。『わあ、これ辛いわ』と思つたんです。ある日、子どもを塾に迎えに行ったとき、知り合いのママたちがいたので、その日あつたことをバンバン愚痴つたら、みんなが『わかる、わか

インタビュー

つるの剛士さん

タレント

22歳で主演した『ウルトラマンダイナ』で人気を集め、『クイズ！ヘキサゴンII』ではバラエティを席卷、ユニット“羞恥心”でも大きな成功を収めるなど、常に第一線で活躍してきた、つるの剛士さん。
5人の子育てをするパパとしても知られていますが、今は大学で学びを深め、新たな挑戦を始めているといいます。

家庭での学びは会社でも きつと役に立つ

「『つるのパパ、よくやっているよ』と言ってくれた。それがもう本当にうれしくて。ああ、ママたちはみんな辛いなか、我慢しながら頑張っているんだなって思いましたね。」

やがて世間で『イクメン』がもてはやされるようになると、早々に育休を取つたつるのさんは、その代表のような存在として扱われるように。ただ本人は「イクメンになりたかつたわけじゃない。妻と一緒に子育てをしただけ」と、イクメンという言葉の一人歩きにもやもやした気分だったといいます。そんなこころ5人目を授かり、「よし、今回はきつちり『イクメン』をやってみよう」と決心。
「ねじり鉢巻きにメモ帳持って、自分

「パパの育休」は ママの最大の理解者になるための 「家庭訓練」の時間



にマニフェストを課して、イクメンに真っ向から取り組んだんです。まず、『家のことは全部僕がやるから、ママは赤ちゃんだけ見ていて』と宣言。朝から晩まで家事に追われる日々は、案の定、あつという間に一日が終わり、目標をつくつてもなかなか達成できないし、家族以外とおしゃべりしたくなるし、お弁当を作ったら誰かにほめてほしいくなる。何が大変なのか、家族に何をしてほしいのか、どうしてイライラしちゃ

うのか。思ったことをそのつどメモ帳に書き留めて、1カ月後、全部ブログに書いてアップしたんです。そうしたら500万回も見られて、『男の人でも、ここまでわかってくれるんだ』とママたちから共感の嵐。衝撃的でしたね。改めて、男性が育休を取ることの大切さを伝えていかなくては、と思ったし、もつと育休を取得する人が増えてほしいと願うようになりました。

僕、育児休業という言葉はおかしいと思っていて、個人的には「家庭訓練」、ママに家事・育児のスキルを鍛えてもらう時間だと思っています。初めて知ることが多いから、本当に勉強になります。もちろん、組織の中で働いている方の育休取得は大変だとは思いますが、僕は芸能人だから取れたんだろうと、よく言われますけど、家庭での学びは

今までにない視点を持てるようになるので、会社に戻ったときに必ず役に立つはず。決して損にはならないと思います」。

育休を取るメリットは、ほかにもあります。それは、1〜2カ月、家事・育児の大変さをきっちり経験したパパは、確実にママの理解者になれるということ。

「仕事から帰ってくると、ママがその日あったことを話してくれるんですが、大変さがわかっていなかったときは、正直、右から左に聞き流していました。でも、今はちゃんと理解できるので、『大変だったね。ありがとう』と労り、『この日俺が子どもたちを見るから温泉にでも行ってきたら』と言えるようになりました。今は、育休中ほど家事はできていないけれど、大変さを理解して声かけできるだけでも、ママの気持ちはずいぶん楽になっていると思います。以前は『これはパパに言っても、どうせわからないから』と話してくれなかったこともちゃんと話してくれるので、会話が増えた。いいことだらけだと思います」。

子どもが小さいときから

お金を稼ぐことの大変さを伝える

子ども5人と夫婦の7人家族のつる

大事な乳幼児期を 取り巻く環境を変えるため、 一石を投じられる人になりたい

の一家。家計をどんなふうに戻しているのか、ということも気になります。

「僕は趣味が多くて、すぐにお金を使ってしまうので、家計はすべて妻に

任せています。銀行員だった親父が実

は借金を抱えていたことが、亡くなってからわかったこともあり、お金はちゃんとしなければと若いころから思ってい

て、結婚前に2人で保険にも入りまし

た。子どもたちそれぞれの学資保険にも加入していて、月々積み立てています。これは子どもたちには内緒で、将来、

お金について相談されたら、「これ、パパたちからのプレゼント」と言って渡そうと思っています」。

では、お子さんたちのお金の教育に



については、どんなことに気を付けているのでしょうか。

「小さいときにやっていたのは、子どもたち一人ずつに貯金箱をつくり、僕が仕事から帰ってきたら、その日、ママのお手伝いを頑張った子の貯金箱にお金を入れてあげる、というシステムですね。月末にみんなでお小遣い会議をすると、お手伝いした子のお小遣い残高は増えている。それは、お金を稼ぐとはどういうことか、を理解するのに有効だったかなと思います。」

ほかには、大前提としてパパとママに感謝をしてから使うんだよ、ということも言っていました。稼いでくれる人がいるからこそ使えるお金があるんだということを理解すれば、ありがたみがわかるかなと。うちは、子どもたちに18歳になったら家を出て独立するように言っています。いつまでも親の脛をかじってはいけませんからね。そうしたら、あるとき、子どもたちが住宅情報誌を見て真剣に部屋を探していたので、びっくりしました。ちょっと強く言い過ぎたかなって、今は反省しています(笑)。

幼児教育の大切さを知り

専門性を身に付ける必要性を実感

子育てに積極的に取り組んできたつ

るのさんは、その経験を仕事にも生かし、多くの子ども関係の番組に携わってきました。そして2020年、新しい挑戦として、小田原短期大学に入学し、幼児教育を学んだのです。

「今後もし子育て関係の仕事は増えていくだろうし、『子どもが自然の中で過ごせる〴〵〴〵園』のような施設をつくりたい」という夢もあったので、改めて専門的なことを学ぼうと思ったんです。久しぶりの勉強は、楽しかったですよ。通信教育ですが、定期的に登校日があるって、キャンパスライフもエンジョイできました。電車に乗ってキャンパスへ行き、主婦や社会人などいろいろな立場の人たち(9割が女性!)と一緒に学校でお弁当を食べたり勉強したり。新鮮でした。

1カ月間の教育実習にも行きました。朝から晩まで、個性溢れる子どもたちと向き合い、この子どもたちの未来に少しでもいい影響を与えられたら、という思いで取り組んだ、責任も重いけれど充実した毎日でした。ただ、日誌書きだけは大変だった! その日あったことをすべて、事細かに書かなくちゃいけないので夜中までかかっちゃいます。ようやく書き上げたと思ったら、翌日はまた8時に出勤。それが毎日続くんです。土日は休みなので、初めて僕は花

金〴〵の意味を知りました(笑)。でも、教え子やそのママたちは、今でも街で会うと『つるの先生!』って声をかけてくれるし、地域とのつながりもできたと実感できて、得るところの多い時間でしたね。

幼児教育をみっちり学び、幼稚園教諭二種免許を取得し、保育士試験にも合格したつるのさん。夢だった〴〵〴〵園を開園するのかもしれない、心理士の資格取得も視野に勉強することを決めたといいます。

「乳幼児の期間は、人間性を構築するのにとても大事な時期で、保育に携わる保育士や先生方は、社会的にとっても価値のある仕事をされています。にもかかわらず、そこがあまり認知されていないと感じたんです。彼らの地位向上に取り組みしないと、保育に関わる様々な問題が解決しないし、声を上げてくれるママたちも、すぐに次の課題に直面して移っていつてしまふ。そういう現状について、きちんと発信できる人が社会に訴え、社会全体で少子化を考えべきだと思えます。もちろん、それを自分ができるとはまだ言えませんが、何か一石を投じられるような人になりたい。そのためには、もっと自分の学びを深めなくては、と思ったんです。結

婚や子どもを持つことがデメリットになつてはいけない」。

50歳まであと2年という年齢になり、つるのさんは、改めて、自分が専門性を持ち、世の中に訴えかけていく存在になろうと意欲を燃やしているのです。夢を語るつるのさんの顔は、まさに教育者そのもの。ゴールは何ですか、と聞くと、

「ゴール? 決めてないです。後悔しない人生にしたい。やりたいことを全部やっていたねと、みんなに思ってもらえる人になりたいし、自分も『やりたいことは全部やった!』と満足して終わりたい。それが今の目標ですね」。

プロフィール

つるの剛士
つるの・たけし

1975年福岡県生まれ。97年『ウルトラマンダイナ』のアスカ隊員役を演じブレイク。2008年、『クイズ!ヘキサゴンII』から派生したユニット“羞恥心”のリーダーとして一躍、時の人に。09年にカバーアルバム『つるのうた』をリリースするなど、精力的に音楽活動が続ける一方、将棋、釣り、バイクなど趣味も多彩。幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得。

